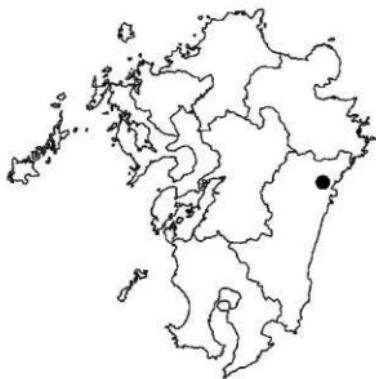


あか ぎ

## 赤木遺跡第8地点（第三次調査）

Akagi Site

一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4)



2008

宮崎県埋蔵文化財センター



赤木道跡遠景①（道跡南より行樂山をのぞむ）

## 巻頭図版 2



赤木遺跡遠景②（遺跡北より五ヶ瀬川をのぞむ）



赤木遺跡全景（遺跡西より）

## 序

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深いご理解をいただき厚く御礼申し上げます。

宮崎県教育委員会では、一般国道218号北方延岡道路建設事業に伴い、宮崎県延岡市舞野町に所在する赤木遺跡第8地点の第三次調査を行いました。

赤木遺跡は、昭和60年に延岡市教育委員会が行った発掘調査以後、複数回の発掘調査が行われました。特に旧石器時代の遺構・遺物の発見は、東九州を代表する主要遺跡となっています。

今回の調査では、旧石器時代の遺構・遺物が多く検出されました。特に始良Tn火山灰層（約28,000年前）の上下複数層で生活痕跡を確認することができました。

こうした先人の歩みを振り返り、郷土の歴史を解明する貴重な資料が得られたことは、大きな成果だと言えるでしょう。

本書が学術資料としてだけではなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関をはじめ、ご指導・ご助言をいただいた先生方、ならびに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成20年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 清野 勉

## 例　　言

1. 本報告書は、一般国道218号北方延岡道路建設工事に伴い、宮崎県教育委員会が行った赤木遺跡第8地点（第三次調査）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所の委託を受けて、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査は、平成17年12月12日から平成18年3月17日まで行った。
4. 現地での実測・写真撮影等の記録は、平山十四郎・赤崎広志が行い、空中写真撮影は、有限会社スカイサーベイ九州に、基準点・水準点・グリッド杭設置は、株式会社東九州コンサルタントに委託した。
5. 整理作業は、宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面の作成・実測・トレースは平山十四郎が整理作業員の協力を得て行った。一部の石器遺物の実測図作成・トレース図作成は、大成エンジニアリング株式会社・株式会社パスコに委託した。
6. 本書で使用した第1図・第5図は、延岡市作成「延岡都市計画基本図29」を、第2図・第3図は、国土地理院作成「川水流（1/25,000）」「延岡（1/50,000）」を基に作成した。
7. 土層断面の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帳」に掲っているが、数字等記載のない色名はその限りではない。
8. 本書で使用した方位は、「N」と記載しているものは磁北である。「G N」と記載しているものは座標北である。レベルは海拔絶対高である。報告書抄録に使用している経緯度数値は、世界測地系を使用している。
9. 本書で使用した遺構略号は次の通りである。S C…土坑　　S I…礫群
10. 本書の執筆・編集は平山十四郎が行った。第I章については、宮崎県埋蔵文化財センター2007「赤木遺跡第8地点（第二次調査）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第145集』より引用し、一部修正を加えた。
11. 出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	2
第Ⅱ章 調査の概要	
第1節 調査の経過	7
第2節 基本層序	9
第Ⅲ章 調査の記録	
第1節 第Ⅰ期（X b～X I層）の調査	10
第2節 第Ⅱ期（X a層）の調査	21
第3節 第Ⅲ期（VII～VIII層）の調査	43
第4節 第Ⅳ期（VI層）の調査	81
第5節 その他の遺物	93
第Ⅳ章 まとめ	
第1節 赤木遺跡第8地点（第三次）の様相	94
第2節 赤木遺跡第1地点・第8地点（第二次）との比較について	96

## 挿図目次

第1図 赤木遺跡周辺図①	2	第19図 第Ⅱ期石器実測図1	23
第2図 赤木遺跡周辺図②	3	第20図 第Ⅱ期石器実測図2	24
第3図 延岡市周辺遺跡分布図	5	第21図 第Ⅱ期石器実測図3	25
第4図 赤木遺跡グリッド配置図	7	接合資料Ⅱ-①分布図	
第5図 赤木遺跡周辺地形図	8	第22図 第Ⅱ期石器実測図4	26
第6図 土層断面図	9	第23図 第Ⅱ期石器実測図5	27
第7図 第Ⅰ期検出状況図	11	第24図 第Ⅱ期石器実測図6	28
第8図 第Ⅰ期石器実測図1	12	接合資料Ⅱ-②分布図	
第9図 第Ⅰ期石器実測図2	13	第25図 第Ⅱ期石器実測図7	29
第10図 第Ⅰ期石器実測図3	14	第26図 第Ⅱ期石器実測図8	30
第11図 第Ⅰ期石器実測図4	15	接合資料Ⅱ-③分布図	
接合資料Ⅰ-①分布図		第27図 第Ⅱ期石器実測図9	31
第12図 第Ⅰ期石器実測図5	16	接合資料Ⅱ-④分布図	
第13図 第Ⅰ期石器実測図6	17	第28図 第Ⅱ期石器実測図10	32
第14図 第Ⅰ期石器実測図7	18	第29図 第Ⅱ期石器実測図11	33
第15図 第Ⅰ期石器実測図8	19	第30図 第Ⅱ期石器実測図12	34
第16図 第Ⅰ期石器実測図9	20	接合資料Ⅱ-⑤分布図	
接合資料Ⅰ-②・③・④分布図		第31図 第Ⅱ期石器実測図13	35
第17図 第Ⅱ期検出状況図	21	第32図 第Ⅱ期石器実測図14	36
第18図 第Ⅱ期礫群実測図	22	接合資料Ⅱ-⑥分布図	

第33図 第Ⅱ期石器実測図15	37	第62図 第Ⅲ期石器実測図21	68
第34図 第Ⅱ期石器実測図16	38	接合資料Ⅲ-④分布図	
接合資料Ⅱ-⑦分布図		第63図 第Ⅲ期石器実測図22	69
第35図 第Ⅱ期石器実測図17	39	接合資料Ⅲ-⑤分布図	
接合資料Ⅱ-⑧分布図		第64図 第Ⅲ期石器実測図23	70
第36図 第Ⅱ期石器実測図18	40	接合資料Ⅲ-⑥分布図	
接合資料Ⅱ-⑨分布図		第65図 第Ⅲ期石器実測図24	71
第37図 第Ⅱ期石器実測図19	41	第66図 第Ⅲ期石器実測図25	72
接合資料Ⅱ-⑩分布図		接合資料Ⅲ-⑦分布図	
第38図 第Ⅱ期石器実測図20	42	第67図 第Ⅲ期石器実測図26	73
接合資料Ⅱ-⑪分布図		接合資料Ⅲ-⑧分布図	
第39図 第Ⅲ期層準別遺物分布図	44	第68図 第Ⅲ期石器実測図27	74
第40図 第Ⅲ期検出状況図	45	接合資料Ⅲ-⑨分布図	
第Ⅲ期礫群実測図1		第69図 第Ⅲ期石器実測図28	75
第41図 第Ⅲ期礫群実測図2	46	第70図 第Ⅲ期石器実測図29	76
第42図 第Ⅲ期石器実測図1	48	第71図 第Ⅲ期石器実測図30	77
第43図 第Ⅲ期石器実測図2	49	接合資料Ⅲ-⑩分布図	
第44図 第Ⅲ期石器実測図3	50	第72図 第Ⅲ期石器実測図31	78
第45図 第Ⅲ期石器実測図4	51	接合資料Ⅲ-⑪分布図	
第46図 第Ⅲ期石器実測図5	52	第73図 第Ⅲ期石器実測図32	79
第47図 第Ⅲ期石器実測図6	53	第74図 第Ⅲ期石器実測図33	80
第48図 第Ⅲ期石器実測図7	54	第75図 第Ⅳ期検出状況図	81
第49図 第Ⅲ期石器実測図8	55	第76図 第Ⅳ期土坑実測図	82
第50図 第Ⅲ期石器実測図9	56	第77図 第Ⅳ期礫群実測図1	83
第51図 第Ⅲ期石器実測図10	57	第78図 第Ⅳ期礫群実測図2	84
第52図 第Ⅲ期石器実測図11	58	第79図 第Ⅳ期石器実測図1	87
第53図 第Ⅲ期石器実測図12	59	第80図 第Ⅳ期石器実測図2	88
第54図 第Ⅲ期石器実測図13	60	第81図 第Ⅳ期石器実測図3	89
第55図 第Ⅲ期石器実測図14	61	第82図 第Ⅳ期石器実測図4	90
第56図 第Ⅲ期石器実測図15	62	接合資料IV-①分布図	
第57図 第Ⅲ期石器実測図16	63	第83図 第Ⅳ期石器実測図5	91
接合資料Ⅲ-①分布図		第84図 第Ⅳ期石器実測図6	92
第58図 第Ⅲ期石器実測図17	64	接合資料IV-②分布図	
第59図 第Ⅲ期石器実測図18	65	第85図 散礫分布図・石礫実測図・石礫分布図	93
第60図 第Ⅲ期石器実測図19	66	第86図 赤木遺跡第8地点（第三次調査）の	
接合資料Ⅲ-②分布図		石器様相	97
第61図 第Ⅲ期石器実測図20	67		
接合資料Ⅲ-③分布図			

## 表 目 次

第1表 第Ⅰ期出土石器石材別組成表	10	第9表 第Ⅰ期石材器種別組成表	94
第2表 主要石器石材分類表	11	第10表 第Ⅱ期石材器種別組成表	95
第3表 第Ⅲ期出土石器石材別組成表	22	第11表 第Ⅲ期石材器種別組成表	95
第4表 第Ⅲ期砾群計測表	43	第12表 第Ⅳ期石材器種別組成表	96
第5表 第Ⅲ期出土石器石材別組成表	47	第13表 石器計測表1	99
第6表 第Ⅳ期土坑計測表	82	第14表 石器計測表2	100
第7表 第Ⅳ期砾群計測表	85	第15表 石器計測表3	101
第8表 第Ⅳ期出土石器石材別組成表	86		

## 図 版 目 次

図版1	卷頭1	図版6	106
赤木遺跡遠景①〈遺跡南より行縢山をのぞむ〉		第Ⅰ期遺物(1~7)	
図版2	卷頭2	第Ⅰ期遺物(8·9)	
赤木遺跡遠景②〈遺跡北より五ヶ瀬川をのぞむ〉		10接合資料I-①	
赤木遺跡全景〈遺跡西より〉		10接合資料I-①(構成剥片)	
図版3	103	11接合資料I-②	
土層堆積状況		11接合資料I-②(構成剥片)	
第Ⅰ·Ⅱ期検出状況		12接合資料I-③	
第Ⅱ期 1号砾群		12接合資料I-③(構成剥片)	
第Ⅱ期 2号砾群		図版7	107
第Ⅱ期 2号砾群付近検出状況		13接合資料I-④	
作業風景		13接合資料I-④(構成剥片)	
図版4	104	第Ⅱ期遺物(14~26)	
第Ⅲ期 VII層検出状況〈K6グリッド付近〉		第Ⅱ期遺物(27·28)	
第Ⅲ期 VII層検出状況〈4号砾群と遺物集中区〉		29接合資料II-①	
第Ⅲ期 3号砾群		29接合資料II-①(構成剥片)	
第Ⅲ期 4号砾群		30接合資料II-②	
第Ⅲ期 検出状況		30接合資料II-②(構成剥片)	
第Ⅲ期 検出状況〈I5·I6グリッド付近〉		図版8	108
図版5	105	31接合資料II-③	
第Ⅳ期 1号砾群		31接合資料II-③(構成剥片)	
第Ⅳ期 1号土坑		32接合資料II-④	
第Ⅳ期 2号砾群		32接合資料II-④(構成剥片)	
第Ⅳ期 1号砾群と2号土坑		33接合資料II-⑤	
第Ⅳ期 3号砾群		33接合資料II-⑤(構成剥片)	
第Ⅳ期 4号砾群		34接合資料II-⑥	
第Ⅳ期 5号砾群		34接合資料II-⑥(構成剥片)	

図版9	109	図版12	112
35接合資料II-⑦		138接合資料III-③	
35接合資料II-⑦(構成剥片)		138接合資料III-③(構成剥片)	
36接合資料II-⑧		139接合資料III-④	
36接合資料II-⑧(構成剥片)		139接合資料III-④(構成剥片)	
37接合資料II-⑨		140接合資料III-⑤	
37接合資料II-⑨(構成剥片)		140接合資料III-⑤(構成剥片)	
38接合資料II-⑩		141接合資料III-⑥	
38接合資料II-⑩(構成剥片)		141接合資料III-⑥(構成剥片)	
39接合資料II-⑪		142接合資料III-⑦	
39接合資料II-⑪(構成剥片)		142接合資料III-⑦(構成剥片)	
図版10	110	図版13	113
第Ⅲ期遺物(40~50)		143接合資料III-⑧	
第Ⅲ期遺物(51~63)		143接合資料III-⑧(構成剥片)	
第Ⅲ期遺物(64~72)		144接合資料III-⑨	
第Ⅲ期遺物(73~81)		144接合資料III-⑨(構成剥片)	
第Ⅲ期遺物(82~89)		145接合資料III-⑩	
第Ⅲ期遺物(90~94)		145接合資料III-⑩(構成剥片)	
第Ⅲ期遺物(95~104)		146接合資料III-⑪	
第Ⅲ期遺物(105~113)		146接合資料III-⑪(構成剥片)	
図版11	111	図版14	114
第Ⅲ期遺物(114~123)		第Ⅳ期遺物(147~158)	
第Ⅲ期遺物(124~132)		第Ⅳ期遺物(159~167)	
第Ⅲ期遺物(133・134)		第Ⅳ期遺物(168~170)	
第Ⅲ期遺物(135)		171接合資料IV-①	
136接合資料III-①		171接合資料IV-①(構成剥片)	
136接合資料III-①(構成剥片)		172接合資料IV-②	
137接合資料III-②		172接合資料IV-②(構成剥片)	
137接合資料III-②(構成剥片)		その他の遺物(173・174)	

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

一般国道218号北方延岡道路整備事業は、宮崎県北地域への高速交通サービスを提供し、地域活性化に寄与することを目的として、建設省（現国土交通省）九州地方整備局延岡河川国道事務所が平成8年度に高規格道路（延岡道路・北方延岡道路）を事業化した。

宮崎県教育委員会は、平成6年度に国の補助を受けて延岡市～西都市周辺を対象とした詳細分布調査を実施し、この成果を踏まえ、同事業による埋蔵文化財への影響や保護の方法について協議を開始した。以来、現在も同事業に伴う協議・調査を継続している。この協議を基に工事によって影響を受ける埋蔵文化財包蔵地の試掘調査を実施した結果、今回報告する赤木遺跡において、旧石器時代から縄文時代にかけての遺物が数多く確認され、記録保存の措置をとることとなった。

用地買収等の関係上、調査は複数年・複次にかけて実施することとなった。第一次調査は、今回調査対象区西部3,800m<sup>2</sup>を平成15年10月28日～平成16年3月26日の約5か月間（調査実施日87日）、第二次調査を、調査対象区中央部1,500m<sup>2</sup>を平成16年6月14日～平成16年12月15日の約6か月間（調査実施日99日）、第三次調査を、調査対象区東部1,000m<sup>2</sup>を平成17年12月12日～平成18年3月17日の約3か月間（調査実施日60日）実施した。また、今回報告する第三次調査における遺物整理作業と報告書作成作業を、平成18年度から平成19年度にかけて宮崎県埋蔵文化財センターで実施した。

## 第2節 調査の組織

赤木遺跡第8地点（第三次調査）の発掘調査及び整理・報告書作成作業は下記の組織で実施した。

調査主体：宮崎県教育委員会　　調査機関：宮崎県埋蔵文化財センター

（平成17年度）

赤木遺跡第8地点（第三次）発掘調査

所長	宮園 淳一
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
総務課長	宮越 尊
総務課総務係主幹兼係長	石川 恵史
調査第二課調査第四係主幹	近藤 協
同課調査第四係主査	平山十四郎
同課調査第四係主査	赤崎 広志
事業調整担当主査	飯田 博之（文化財課）

（平成18年度）

赤木遺跡第8地点（第三次）整理作業

所長	清野 勉
副所長	加藤 恒郎
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
総務課長	宮越 尊
総務課総務担当主幹	高山 正信
調査第二課調査第四担当主幹	近藤 協
同課調査第四担当主査	平山十四郎
事業調整担当主査	飯田 博之（文化財課）

（平成19年度）

赤木遺跡第8地点（第三次）整理作業・報告書刊行

所長	清野 勉
副所長	加藤 恒郎
総務課長	宮越 尊
総務課総務担当主幹	高山 正信
調査第二課長	石川 悅雄
同課調査第四担当主幹	近藤 協
同課調査第四担当主査	平山十四郎
事業調整担当主査	飯田 博之（文化財課）

### 第3節 遺跡の位置と環境

#### (1) 赤木遺跡調査の歴史

赤木遺跡は、古くから旧石器時代から古墳時代にかけての表探資料が確認されている「周知の埋蔵文化財包蔵地」である。遺跡は過去に7回の発掘調査を行っている。昭和60年（1985年）には、保育園建設に伴い延岡市教育委員会が実施した。調査の結果、始良Tn火山灰層上位からナイフ形石器を中心とする包含層（赤木遺跡第Ⅰ文化層）と細石器を中心とする包含層（赤木遺跡第Ⅱ文化層）の良好な旧石器時代包含層2枚が確認された【第1地点（第1次調査）・文献①】。平成6年（1994年）には、保育園駐車場建設に伴い延岡市教育委員会が国指定史跡南方古墳群第21号・第22号の墳丘範囲確認調査を実施した【第2地点（第2次調査）・文献②】。平成9年（1997年）には、携帯電話無線基地局建設に伴い延岡市教育委員会が丘陵中央平坦部の調査【赤木遺跡第3・4地点（第3・4次調査）】を行い、旧石器時代遺物約320点が出土した（文献③）。平成11年（1999年）には、同じく携帯電話無線基地局建設に伴い延岡市教育委員会が丘陵西部北斜面の調査【赤木遺跡第5・6地点（第5・6次調査）】を行い、旧石器時代遺物約220点が出土した（文献③）。平成13年（2001年）には、宅地造成に伴い延岡市教育委員会が丘陵中央平坦部の調査【第7地点（第7次調査）】を実施した。調査の結果、主に始良Tn火山灰層上位の旧石器時代の遺物が多く出土した。また、部分的ながら始良Tn火山灰層下位の調査も実施し、ナイフ形石器をはじめとする石器類が出土した（文献③）。

今回宮崎県埋蔵文化財センターが実施した第8地点の第一次～三次調査は、赤木遺跡全体の第8次調査にあたる。また、今回の調査が終了した後も延岡市教育委員会が調査を行っており、平成15年（2003年）の第9地点（第9次）調査では国指定史跡南方古墳群第22号墳の周溝と須恵器が、平成16年（2004年）の第10地点（第10次調査）と平成17年（2005年）の第11地点（第11次調査）では縄文～旧石器時代の遺物が確認されている（文献④・⑤・⑥）。



第1図 赤木遺跡周辺図① (S = 1/5,000)

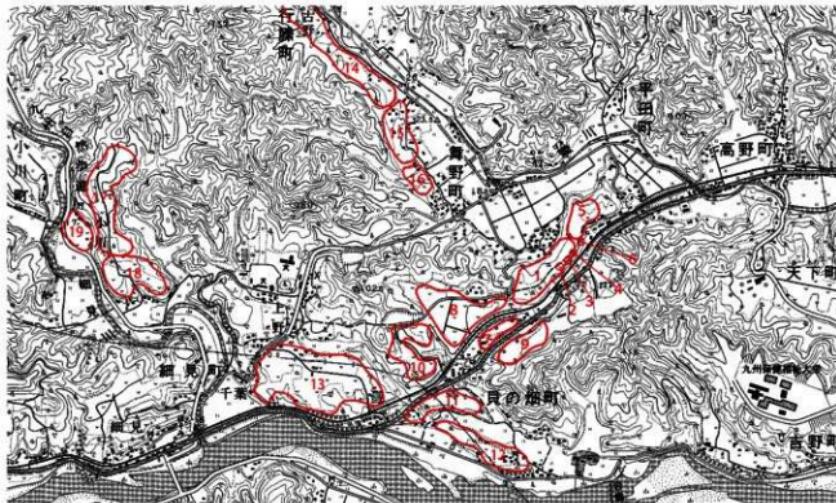
## (2) 赤木遺跡の立地

赤木遺跡（第1図・第2図-1・第3図-1）は、宮崎県北部、延岡市舞野町字赤木に所在する。遺跡は、延岡市西部、北方町との隣接側にあり、五ヶ瀬川流域に広く分布する阿蘇火砕流堆積物が、五ヶ瀬川本流やその支流の行縢川によって浸食されできた東西方向の丘陵の、ほぼ頂上部に位置している。そのなだらかな丘陵は標高約49mであり、基底部には湧水が存在する。遺跡西隣には、国指定史跡南方古墳群の舞野支群のうち第21号～第23号（第2図-2～4）が分布している。今回調査を行った赤木遺跡第8地点（第三次）は、遺跡中央部にある緩やかな南斜面上に立地する。

## (3) 赤木遺跡周辺の遺跡

遺跡の立地する丘陵上周辺には、赤木遺跡（第2図-1）のほか多くの遺跡が分布する。同じ丘陵状先端部、赤木遺跡東隣には旧石器～近世までの複合遺跡である眞藤遺跡（第2図-5）が、丘陵尾根筋には南方古墳群舞野支群の第19号（第2図-6）・第21号～第23号（第2図-2～4）が分布する。また、丘陵周辺に目を向けると、五ヶ瀬川、五ヶ瀬川支流の行縢川・細見川流域付近の谷平野や河岸段丘上には、豊かな自然を背景に旧石器時代から現代まで連続と生活が営まれていたと考えられ、それを証明するように旧石器時代から現代に至るまでの複合遺跡が多く存在する。

赤木遺跡西側には、弥生～古墳時代の石棺墓が出土した多々羅第2遺跡（文献①・第2図-7）をはじめ、多々羅第1遺跡（旧石器～古墳時代：第2図-8）・多々羅第3遺跡（縄文～古墳時代：第2図-9）が存在する。遺跡南西側、国道218号を挟んだ独立丘陵の北西斜面上には、竹下第1遺跡（旧石器～古墳時代：第2図-10）・竹下第2遺跡（弥生時代：第2図-11）が存在する。遺跡南西側、河川に開拓された平野部には、貝ノ畑遺跡（縄文時代：第2図-12）・黒土田遺跡（旧石器～古墳時代：第2図-13）が存在する。現在九州保健福祉大学のある遺跡南東側の独立丘陵付近にも多数の遺跡が存在する。遺跡北西側、五ヶ瀬川支流藤川の河岸段丘上には行縢小切畑遺跡群（旧石器～弥生時代：第2図-14）・舞野遺跡（弥生～古墳時代・近世：第2図-15）・美土ノ内遺跡（旧石器～古墳時代：第2図-16）が存在する。遺跡西側には五ヶ瀬川支流の細見川があり、近年発掘調査が行われた山田遺跡（文献⑦・旧石器～古墳時代：第2図-17）・畑山遺跡（文献⑧・旧石器～中世：第2図-18）・山口遺跡（文献⑨・弥生～中世：第2図-19）が存在する。



第2図 赤木遺跡周辺図② (S = 1/25,000)

#### (4) 延岡道路・北方延岡道路建設事業関連遺跡

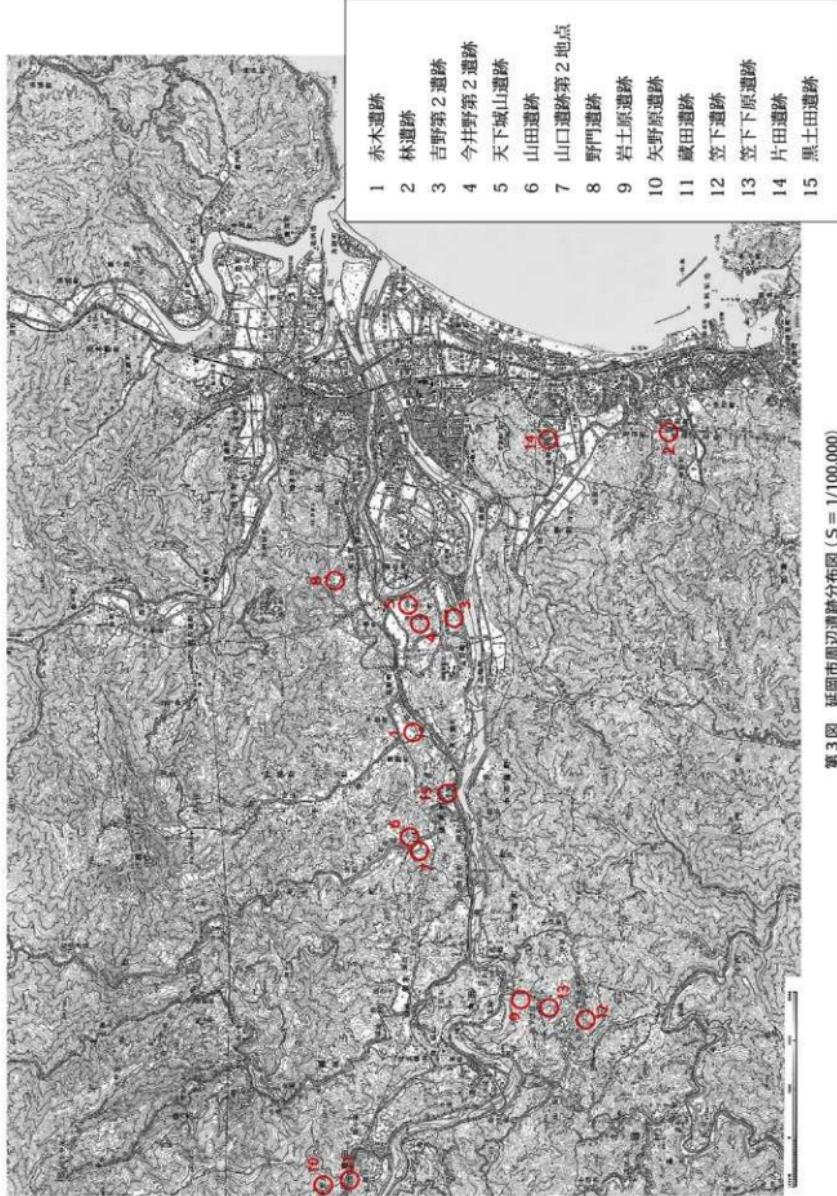
国土交通省は平成6年度から北川町大字長井字上迫から延岡市伊形町までの全長20.6kmの国道10号延岡道路の事業に着手し、それに伴い宮崎県埋蔵文化財センターは、林遺跡（第3図-2）・吉野第2遺跡（文献⑩・第3図-3）・今井野第2遺跡（文献⑪・第3図-4）・天下城山遺跡（文献⑫・第3図-5）の発掘調査を行った。林遺跡は、平成9～12年度の4か年調査を行い、旧石器時代から近世にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。吉野第2遺跡は、平成12・13・15年度に調査を行い、旧石器時代から近世にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。天下城山遺跡は中世山城に関連する遺構・遺物が検出された。平成8年度からは、北方町大字藏田から延岡市天下町の全長11.0kmの国道218号北方延岡道路事業にも着手した。それに伴い、山田遺跡（文献⑬・第3図-6）・山口遺跡第2地点（文献⑭・第3図-7）・野門遺跡（文献⑮・第3図-7）・赤木遺跡第8地点（第3図-1）の発掘調査を行った。山田遺跡は主に旧石器時代や縄文時代早期の遺構・遺物が、山口遺跡第2地点は弥生時代後期から古墳時代中後期にかけての集落跡が、野門遺跡は縄文時代から古代にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。

#### (5) 遺跡周辺の旧石器時代遺跡

赤木遺跡（第3図-1）周辺の五ヶ瀬川中・下流域には多くの旧石器時代遺跡が発掘調査によって確認されており、近年その概要がまとめられている（文献⑯・⑰）。日之影町出羽洞穴遺跡は、1965・1966年に調査（第1次・第2次調査）が行われ、宮崎県下における旧石器時代研究の先駆け的存在となった。第Ⅲ層から尖頭器・削器・斧形石器・石核・剥片等が、第Ⅶ層から礫器・尖頭状礫器・敲打器が出土している（文献⑯・⑰）。その他1960年代後半には、五ヶ瀬川中流域において、旧石器時代の発掘調査がいくつか行われている。延岡市菅原洞穴遺跡【旧北方町】は1966年に調査が行われ、第Ⅱ層から旧石器時代の流紋岩製石器が確認されている（文献⑱）。延岡市岩土原遺跡【旧北方町】（第3図-9）は1968年に調査が行われ、第2文化層から隆帶文土器と細石刃核・細石刃が共伴して出土した。第3文化層から縦長剥片素材を特徴とした不整形搔器が多く出土した（文献⑲）。その後、県北地域、特に五ヶ瀬川中・下流域において、1980年代後半から旧石器時代遺跡の発掘調査例が飛躍的に増加する。

【五ヶ瀬川中流域・延岡市西部（旧北方町地域）】延岡市矢野原遺跡【旧北方町】（第3図-10）は1992年に調査が行われ、姶良Tn火山灰層下において旧石器時代に帰属する2つの文化層が確認された。姶良Tn火山灰層下の第VII～IX層（第I文化層）からは削器・石核・剥片類が、姶良Tn火山灰層上の第VI層（第II文化層）からは遺構として礫群、遺物としてナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・搔器・削器・石錐・石核・剥片類が確認されている（文献⑲）。延岡市蔵田遺跡【旧北方町】（第3図-11）は、1993年に調査が行われ、姶良Tn火山灰層上の第VI層からナイフ形石器・剥片尖頭器・削器・石錐・石核・剥片類が出土した（文献⑲）。延岡市笠下遺跡【旧北方町】（第3図-12）は、1987～1988年に調査が行われ、文化層は確認されなかったがナイフ形石器・剥片尖頭器・削器・石斧状石器・石核等が出土した（文献⑲）。延岡市笠下原遺跡【旧北方町】（第3図-13）は、1991年に調査が行われ、文化層は確認されなかったが削器・石核等が出土した（文献⑲）。

【五ヶ瀬川下流域・延岡市東部（旧延岡市域）】台地上や河川付近の微高地などで多くの旧石器時代遺跡が発掘調査によって確認されている。延岡市片田遺跡（第3図-14）では、1989年に調査が行われ、姶良Tn火山灰層上から石器ブロックやナイフ形石器・削器・搔器・石錐・彫器・三稜尖頭器・細石器等が出土した（文献⑳）。延岡市黒土田遺跡（第3図-15）では、1994年に調査が行われ、ナイフ形石器・剥片尖頭器・削器・細石核・石核・剥片類が出土した（文献㉑）。延岡市林遺跡（第3図-2）ではナイフ形石器・剥片尖頭器などが出土した（文献㉑）。



第3図 延岡市周辺遺跡分布図 (S = 1/100,000)

## 【参考文献】

- 文献①：延岡市教育委員会1987「延岡市の歴史的環境・赤木遺跡・多々羅遺跡」『延岡市文化財調査報告書第3集』
- 文献②：延岡市教育委員会1995「黒土田遺跡・赤木遺跡第2地点・上無田遺跡・平野遺跡・上支野遺跡・淨土寺山古墳」『延岡市文化財調査報告書第13集』
- 文献③：延岡市教育委員会2002「上無田遺跡・赤木遺跡（第7次）」『延岡市文化財調査報告書第25集』
- 文献④：延岡市教育委員会2004「上多々良箱式石棺群（第2次）・中川原町右衛門山地点・野田八田遺跡群（第3次）・木ノ下遺跡・赤木遺跡（第9次）・野地古墳」『延岡市文化財調査報告書第29集』
- 文献⑤：延岡市教育委員会2005「延岡城内遺跡（第10次）・仲畑遺跡・赤木遺跡（第10次）・延岡城内遺跡（第11次）・木ノ下遺跡・上無田遺跡（第4次）・大武遺跡・上多々良遺跡（第2次）・延岡城内遺跡（第12次）・西階横穴」『延岡市文化財調査報告書第30集』
- 文献⑥：延岡市教育委員会2006「神田給遺跡・港山古墳・上無田遺跡（第5次）・赤木遺跡（第11次）・恒富中学校地点・粟野名町島田地点」『延岡市文化財調査報告書第32集』
- 文献⑦：宮崎県埋蔵文化財センター 2007「山田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第146集』
- 文献⑧：延岡市教育委員会1992「上南方地区遺跡」『延岡市文化財調査報告書第8集』
- 文献⑨：宮崎県埋蔵文化財センター 2005「山口遺跡第2地点」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第99集』
- 文献⑩：宮崎県埋蔵文化財センター 2007「吉野第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第155集』
- 文献⑪：宮崎県埋蔵文化財センター 2006「今井野第2遺跡・天下城山遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第135集』
- 文献⑫：宮崎県埋蔵文化財センター 2006「野門遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第136集』
- 文献⑬：岩永哲夫2002「宮崎県の旧石器研究の歴史」「後牟田遺跡」後牟田遺跡調査団・川南町教育委員会
- 文献⑭：藤木聰2002「宮崎県域における旧石器時代研究の現状と課題」『宮崎考古』第18号
- 文献⑮：宮崎県1989『宮崎県史 資料編 考古1』
- 文献⑯：鈴木重治1967「宮崎県見立出羽洞穴」「日本の洞穴遺跡」平凡社
- 文献⑰：鈴木重治1985「日本の古代遺跡25宮崎」保育社
- 文献⑱：鈴木重治1973「宮崎県岩土原遺跡の調査—土器伴出石器文化の一例—」『石器時代』第10号 石器時代文化研究会
- 文献⑲：宮崎県教育委員会1995「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」一般国道218号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 文献⑳：北方町教育委員会1990「笠下遺跡」『北方町文化財報告書第1集』
- 文献㉑：北方町教育委員会1992「笠下下原遺跡」『北方町文化財報告書第4集』
- 文献㉒：延岡市教育委員会1990「片田遺跡（概要）」『延岡市文化財調査報告書第5集』
- 文献㉓：宮崎県教育委員会1990「林遺跡」一般国道10号土々呂バイパス建設関係発掘調査報告書

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 第1節 調査の経過

発掘調査は、平成15年度に行った第一次調査、平成16年度に行った第二次調査の道路を挟んだ南側約1,000mを行った。調査対象区は北方延岡道路建設部分であり、所在地は延岡市舞野町字赤木1478番地1である。調査は、平成17年12月12日より開始した。調査区に一部堆積している基本土層の第IV層と第V層は、縄文時代早期の包含層だと考えられる。しかし、試掘の段階では遺物等は未検出であった。そこで、調査区中央に積んでいた造園業者の土取りの山を除去する際、その層を除去することになるので、注意深く掘削を進めていったが、遺物等はなかった。そこで、第VI層上面に掘えて重機による表土剥ぎを行うことにした。

この段階で国土座標に準じ、第一次調査、第二次調査のグリッドの続きとして西側から東にI～L、北から南に4～7の10m×10mのグリッドを設定し（第4図）、人力による作業を開始した。

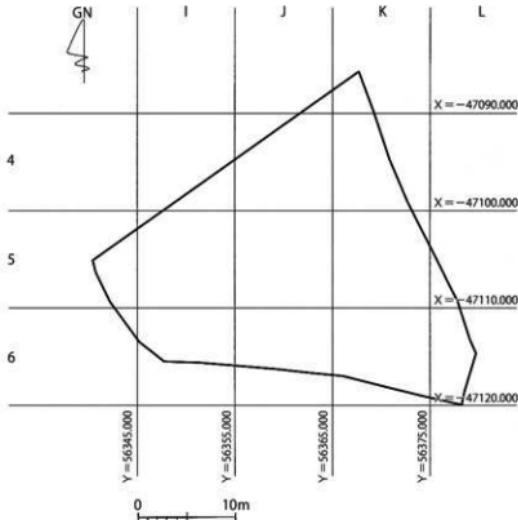
第VI層では、焼土を伴う土坑や礫群といった遺構や細石刃や細石核、角錐状石器やナイフ形石器といった遺物を確認した。

第VII層では、遺構は確認されず、剥片尖頭器やナイフ形石器、角錐状石器といった遺物を確認した。第VIII層掘削が終了した時点で空中写真撮影を行った。

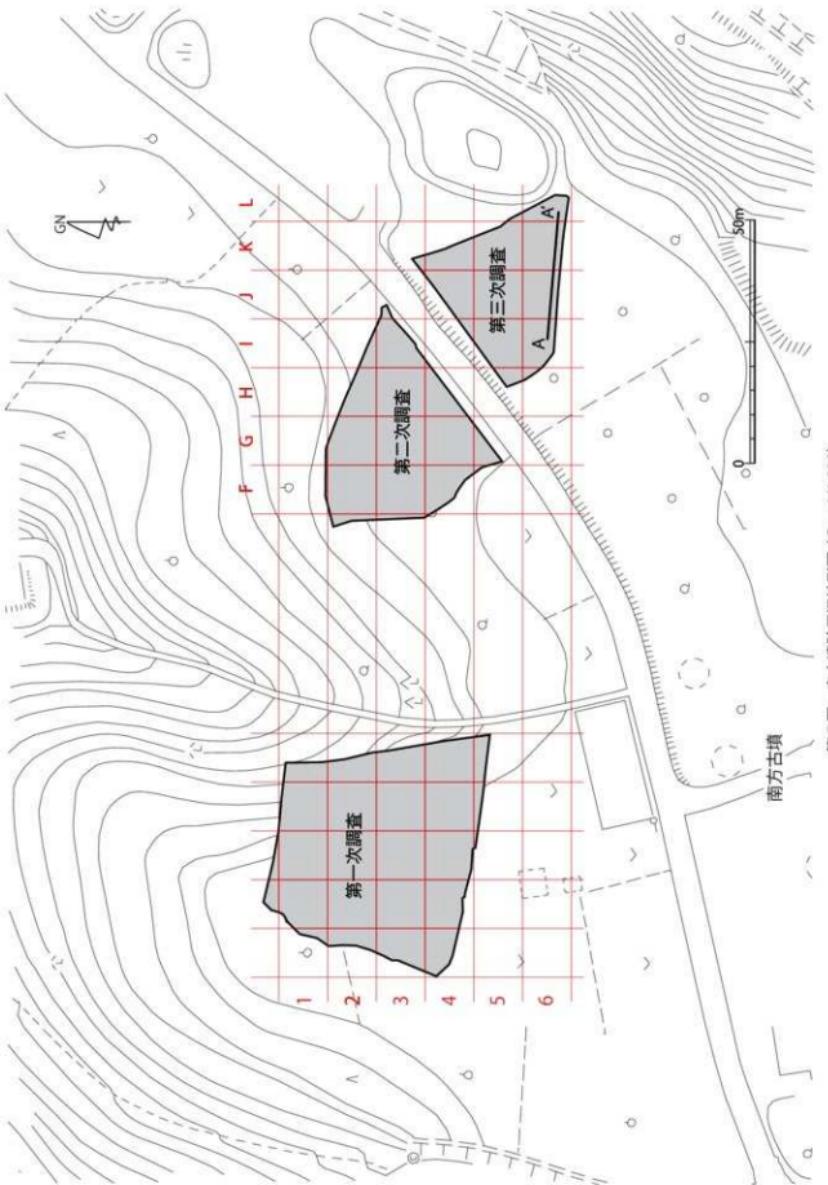
第VIII層では、遺構は礫群のみで、剥片尖頭器やナイフ形石器、角錐状石器といった遺物を確認した。第VIII層除去の終了した時点で、再度重機を投入し、第IX層（姶良Tn火山灰層）の除去を行った。しかし、調査区東側（K-6 グリッド東側）は、第IX層（姶良Tn火山灰層）がブロック状で残存状況が悪いため、人力で掘り下げを行ふことにした。

第X層は、かなり固く、掘削していく作業員の負担も大きかった。各グリッドにL字型のトレーナーを設定し、第XI層までの掘削を行った。剥片等がまとまって確認されれば、周辺まで範囲を広げるという方法で調査を行っていった。調査区東側は、第VII・IX層（姶良Tn火山灰層）、X層が混在する形で明瞭ではなかったため、掘削を慎重に進めていった。遺構は礫群のみで、遺物はナイフ形石器を確認した。最終的には、第XI層上部までの掘り下げを行った箇所は、調査区全体の約半分におよんだ。

約3か月にわたる調査の中、雪が舞い霜の降りる寒い日が幾度かあったが、作業員のけが等もなく平成18年3月17日に無事調査を終了した。



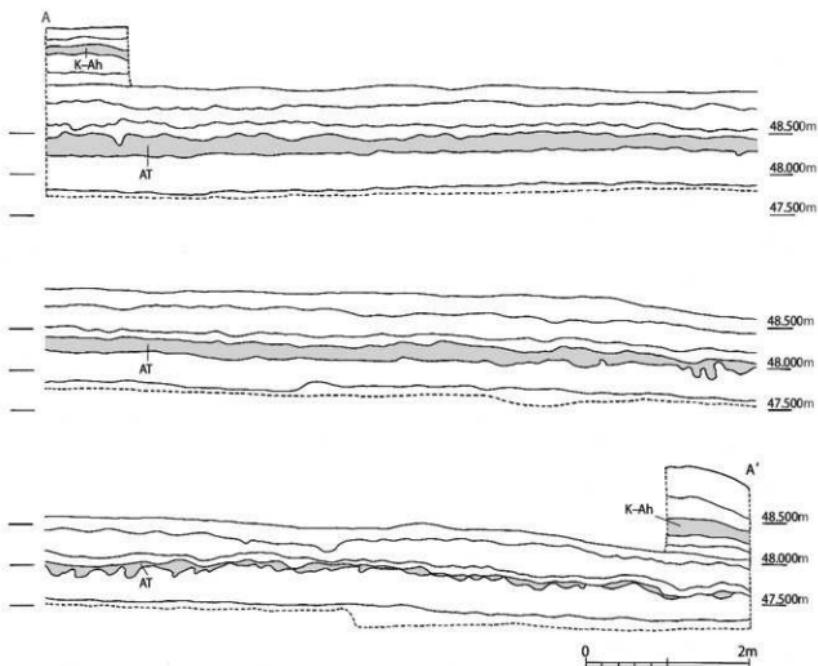
第4図 赤木遺跡グリッド配置図 ( $S = 1/500$ )



第5図 赤木道跡周辺地形図 ( $S = 1/10,000$ )

## 第2節 基本層序

- 赤木遺跡第8地点（第三次調査）で確認された層序は11層である。以下層ごとに堆積状況を記述する。
- 第I層 黒色土（2.5Y2/1）…現地表面の表土。
- 第II層 黒褐色土（7.5YR7/8）…柔らかくしまりがない。
- 第III層 黄橙色火山灰土（10YR7/8）…鬼界アカホヤ火山灰層（K-Ah）。削平により調査区の一部に堆積している。
- 第IV層 黒色土（5YR1.7/1）…やや粘質がある。削平により調査区の一部に堆積している。
- 第V層 黒褐色土（7.5YR3/2）…第VI層への漸移層。削平により調査区の一部に堆積している。
- 第VI層 暗褐色土（10YR3/4）…粘性がある。第V層より柔らかい。
- 第VII層 褐色土（10YR4/4）…粘性がある。第VI層より柔らかい。
- 第VIII層 暗褐色土（10YR3/3）…やや砂質を帯びる。径1mm以下の白色鉱物粒を全体に含んでいる。
- 第IX層 明黄褐色火山灰土（10YR6/8）…始良Tn火山灰層（A T）。調査区南側に向けせん滅していく。
- 第X層 黒褐色土（10YR2/2）…硬質でブロック状に割れる。径1～5cm程の円礫を含んでいる。層厚が約40cmと大変厚く、便宜的に上部2/3をX a、下部1/3をX b層として記録した。
- 第XI層 黄褐色粘質土（10YR5/6）…粘性が非常にあり、保水力がある。



第6図 土層断面図（S = 1/60）